

令和元年度(2019年度)

管理事業名	博物館事業				総合計画の体系	大綱 7 政策 2 施策 2	都市魅力 文化・スポーツに親しめるまちづくり 文化財の保存と活用
主な歳出 予算科目	一般会計	(款)	10	教育費	(項)	5	社会教育費 (目) 9 博物館費
部局名	地域教育部	予算執行所屬	文化財保護課				
予算大事業名 博物館事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名						
<b>事業の目的と概要</b> 地域の文化に関する歴史資料等を調査研究し、必要に応じて資料を収集・保管し、良好な状態で次世代に継承していきます。その成果をさまざまな展示や講演会等の普及活動、刊行物等により発信することで市民の生涯学習活動を支援し、地域の文化を発見、見直し、創造していきます。 市民が集い、多様な体験を活かしながら主体的に博物館活動に参加することで、さまざまな連携を深め、市民生活を豊かな潤いのあるものとします。							

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	成果指標の定義
博物館入館者数	人	34,448	43,322	27,678	博物館が主催、共催する事業の参加人数及び観覧者数
刊行物数	数	8	9	8	調査研究活動を公表する刊行物数
収蔵資料数	点	27,348	27,542	28,408	良好な状態で保管している館蔵資料の数
成果の説明	令和元年度は調査研究の成果をふまえ、市民参画や学校教育との連携なども視点に入れながら8回の特別展などと関連イベントを数多く実施しました。入館者は前年度比15,644人減の2万7,778人でした。また、刊行物として展示図録、博物館だより、博物館館報を刊行し、調査成果を発表するとともに、中学校の歴史学習教材を製作しました。館蔵資料については、特別収蔵庫、一般収蔵庫、平成29年度に増設した新収蔵庫において良好な状態で保管しています。また、新規受入資料に対して年間2回の燻蒸措置及び館内の環境モニター調査を行いました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	656	753	707	△46
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	361	449	397	△52
経常収入 小計(a)	1,018	1,202	1,103	△99
給与関係費	46,495	50,009	49,062	△946
物件費	67,076	70,400	64,459	△5,941
維持補修費	19,773	6,397	23,710	17,313
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	691	703	1,195	492
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	57,340	57,340	57,469	128
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	2,506	3,265	3,294	28
退職手当引当金繰入額	1,866	9,596	798	△8,797
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	195,748	197,710	199,987	2,277
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△194,730	△196,508	△198,884	△2,376
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	0	-	-	-
その他	-	536	-	△536
特別支出 小計(e)	0	536	-	△536
特別収支差額(d)-(e)=(f)	△0	△536	-	536
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△194,730	△197,044	△198,884	△1,840
一般財源充当額	138,184	132,836	144,769	11,934
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△56,546	△64,208	△54,114	10,094

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
使用料及び手数料	新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る休館による使用料の減(46千円)
物件費	主に吸収式冷温水機及び付帯設備更新工事設計業務委託料の減(4,500千円)
維持補修費	主に吸収式冷温水機1・2号機交換修繕の増(16,194千円)

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	1,018	1,202	1,103	△99
行政サービス活動支出	139,202	134,038	144,590	10,553
行政サービス活動収支差額	△138,184	△132,836	△143,487	△10,651
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	1,282	1,282
投資活動収支差額	-	-	△1,282	△1,282
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△138,184	△132,836	△144,769	△11,934
一般財源充当額	138,184	132,836	144,769	11,934
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動収入)博物館使用料707千円、自動販売機設置手数料81千円、資料図録等有料頒布代292千円、自動販売機電気使用料ほか24千円(投資活動支出)高所作業台購入1,282千円
----------	---

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
入館者1人あたりのコスト	平成29年度	34,448人	5,682円	博物館入館者1人あたり、7,225円のコストがかかっています。単位あたりコストの増は、主に休館により入館者数が減少したことによるものです。
	平成30年度	43,322人	4,563円	
	令和元年度	27,678人	7,225円	
	平成29年度		円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	3,265	3,294	28
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	3,265	3,294	28
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	1,297,747	1,240,407	△57,340	固定負債	33,236	31,136	△2,100
土地	-	-	-	地方債	-	-	-
建物・工作物	1,297,747	1,240,407	△57,340	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	33,236	31,136	△2,100
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	297	297	-	その他固定負債	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	負債の部合計	36,501	34,429	△2,072
土地	-	-	-	純資産	1,267,542	1,213,428	△54,114
建物・工作物	-	-	-	重要物品	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	図書館資料	-	-	-
重要物品	6,000	7,154	1,154	投資その他の資産	-	-	-
図書館資料	-	-	-	出資金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
出資金	-	-	-	基金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
基金	-	-	-	その他債権	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	資産の部合計	1,304,043	1,247,857	△56,186
その他債権	-	-	-	負債及び純資産の部合計	1,304,043	1,247,857	△56,186
資産の部合計	1,304,043	1,247,857	△56,186				

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

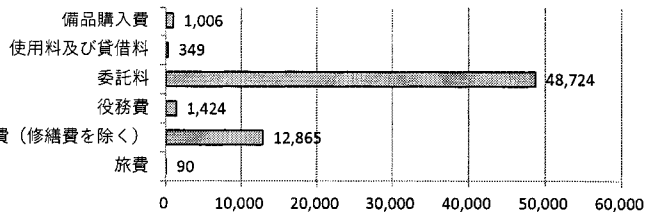
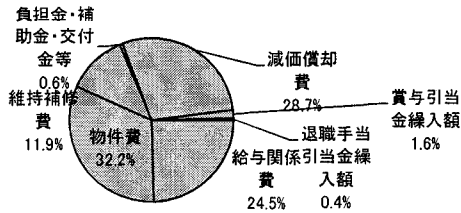
事業従事人数	常勤・再任用		非常勤	臨時雇用員	審議会委員等
	月平均	月平均	月平均	年間従事延日数	実人数
事業従事人数	5人	2人	2人	364日	13人
給与関係費等	41,774千円	6,596千円	6,596千円	4,641千円	143千円
内、時間外勤務手当	1,791千円				
				合計(千円)	53,155

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
事業用資産 建物・工作物	博物館の建物の減価償却による減(55,415千円) 付帯設備(中央監視設備)による減(1,925千円)
事業用資産 無形固定資産	電話加入権
重要物品	高所作業台購入 1,282千円 重要物品償却額 △128千円

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市立博物館
取得年月日	平成4年(1992年)3月30日
建物・工作物の取得価額	2,797,819千円
建物・工作物の減価償却累計額	1,557,413千円
利用料金収入	707千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		0.7	0.2	0.8	0.6
施設老朽化比率		51.6	53.6	55.7	2.1
受益者負担比率		0.3	0.4	0.4	0.0
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		99.3	99.1	99.2	0.1
経常費用対公共資産比率		7.0	7.1	7.1	0.0

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.0%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

【貸借対照表】  
博物館事業は、1,240,407千円の固定資産を有しています。このうち、建物の老朽化比率は55.7%と、市保有施設全体の老朽化比率の57.0%を下回っていますが、昨年度とくらべて、2.1ポイント老朽化が進行しています。

【行政コスト計算書】  
経常費用は199,987千円であり、最も大きいのは物件費の64,459千円、次に大きいのは減価償却費の57,469千円、次が給与関係費49,062千円となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

施設の老朽化比率は市全体からみれば低いものの、開館から27年以上が経過し、建物に付随する電気、機械、空調設備の老朽化が進行しており、施設の機能を維持するために設備の更新、補修が引き続き必要です。そのため財政負担の平準化の視点からも計画的な補修計画が必要と考えています。令和元年度については、非常用発電機の修繕と年次計画であげられている空調機設備更新工事のうち、吸収式冷温水機1・2号機の交換修繕を実施しました。残りの空調機設備更新工事については、令和2年度から3年度にかけて実施する予定です。また、令和2年度に屋上防水及び外壁改修工事の実施設計を行う予定です。